

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

福井県福井市 福井市大手駐車場

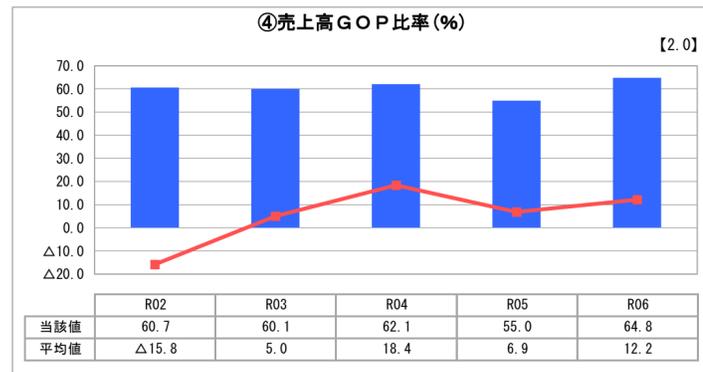
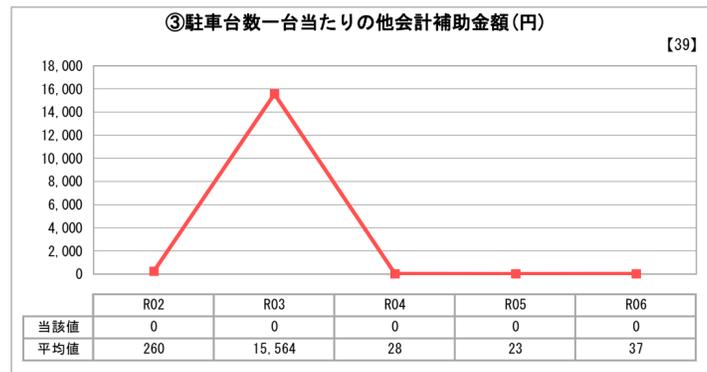
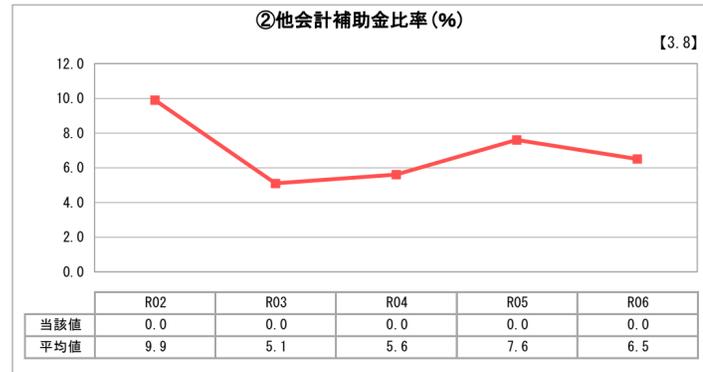
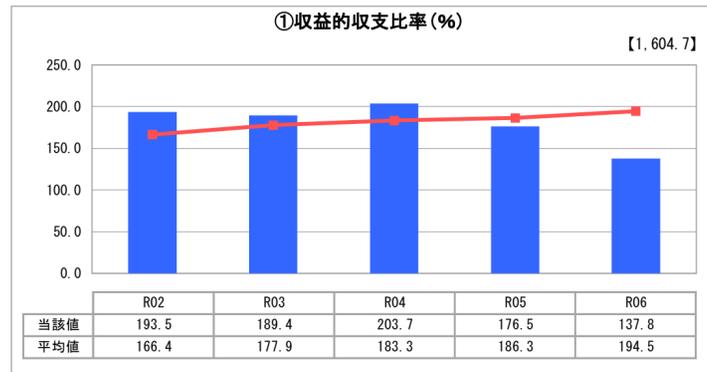
業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A 1 B 2	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	都市計画駐車場 届出駐車場 附置義務駐車施設	立体式	48	

立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m <sup>2</sup> )
公共施設	無	9,242
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
264	300	利用料金制

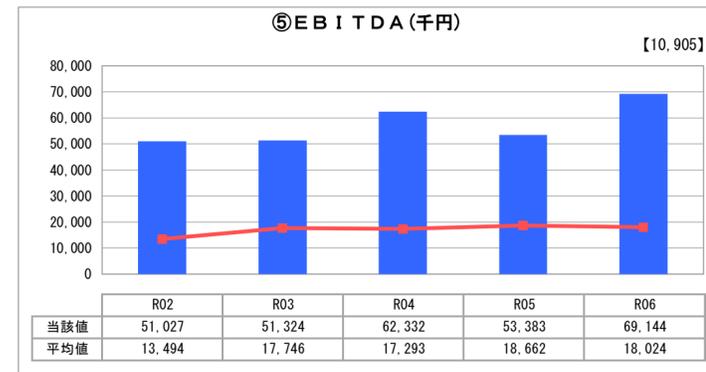
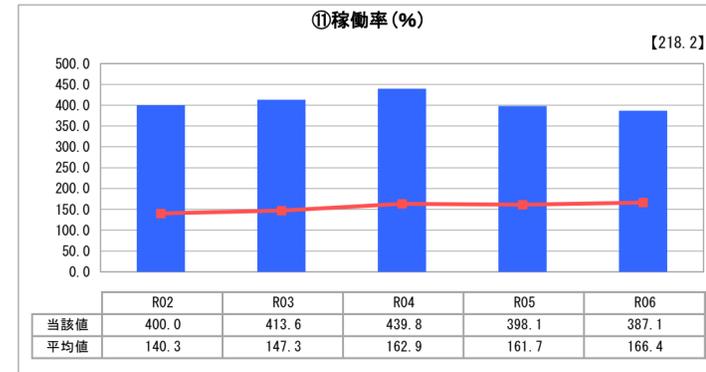
**グラフ凡例**

- 当該施設値(当該値)
- 類似施設平均値(平均値)
- 【】 令和6年度全国平均

## 1. 収益等の状況



## 3. 利用の状況



## 2. 資産等の状況

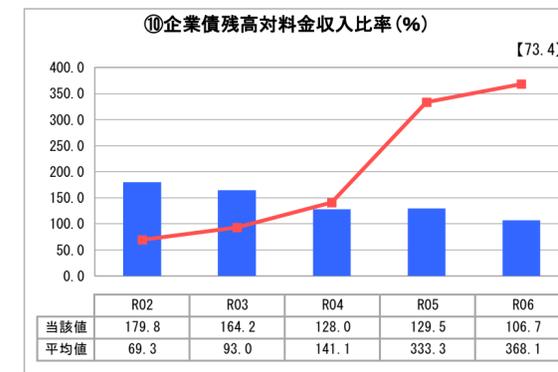
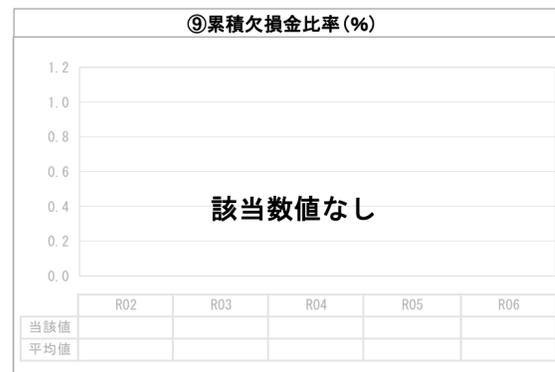


⑦敷地の地価(千円)

364,043

⑧設備投資見込額(千円)

438,635



## 分析欄

1. 収益等の状況について  
 ①収益的収支比率は令和2年度以降、類似施設平均値を上回っていたが、令和5年度・令和6年度は平均値を下回る結果となった。R5年度においては精算機のインボイス対応のための設備投資があったこと、令和6年度においては借換に伴う償還費の増加が要因として考えられる。  
 ②他会計補助金比率及び③駐車台数1台あたりの他会計補助金は、大手駐車場においては一般会計からの繰入金が多かったため、いずれも0である。  
 ④売上高GOP比率及び⑤EBITDAは類似施設平均値より高く、料金収入により維持管理費を賄っており、十分な収益を得られている。  
 当該駐車場は市役所に併設しており、多くの来庁者に利用されることで収入が安定し健全経営が出来ている。

2. 資産等の状況について  
 ⑦敷地の地価について、営業収益と比較してそれほど高額ではないため、民間譲渡より経営継続の方が資金確保を見込むことができる。  
 ⑧設備投資見込額について、建設後48年が経過しているため、将来的に大規模改修が必要となる。躯体状況を見ながら、適切に改修し、維持管理していく必要がある。  
 ⑩企業債残高対料金収入比率は、逡減しており、順調に返済が進んでいる。今後、大規模改修工事や料金管理設備の更新等を行う場合、数値が上がる見込みである。

3. 利用の状況について  
 ①稼働率はほぼ横ばいで推移している。稼働率が高水準である要因として、市役所来庁者による短時間利用が多いことが挙げられるが、閉庁日の駐車台数は閉庁日の約1/7まで減少する。当該駐車場は福井駅周辺中心市街地に位置し、令和6年3月北陸新幹線福井開業以降、休日イベントが増加し、開催される際には、通常よりも多くの利用がある。引き続き休日の利用促進策等を検討していきたい。

全体総括  
 各指標において高水準を維持し、経営状況は健全なレベルといえる。しかし、建設後48年が経過しているため、将来的に大規模改修が必要となる。実施時期については、躯体状況を見ながら適切な時期を判断していく。

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

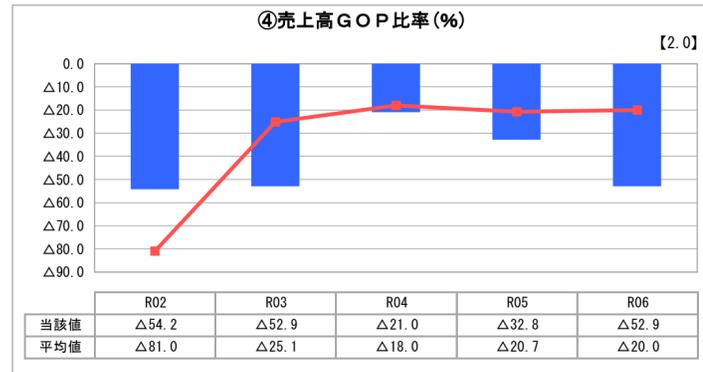
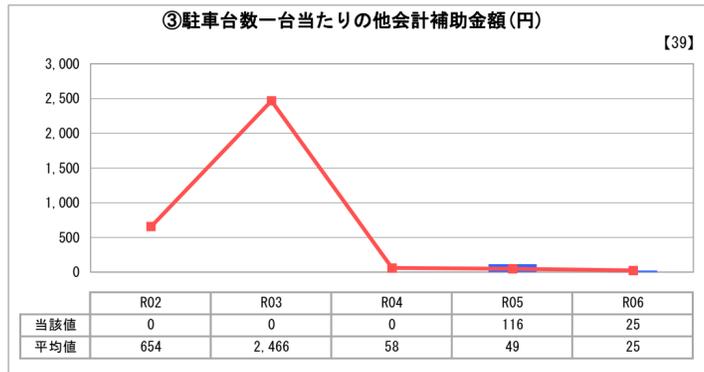
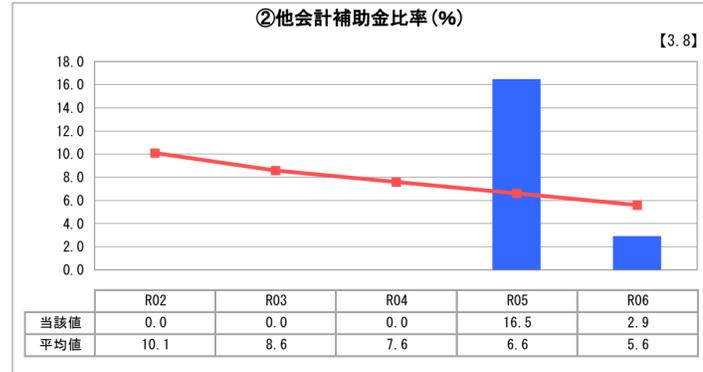
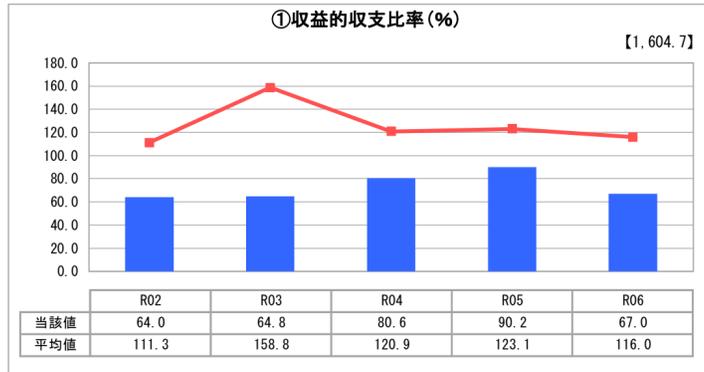
福井県福井市 福井市大手第2駐車場

業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A 2 B 1	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	都市計画駐車場 届出駐車場	地下式	32	

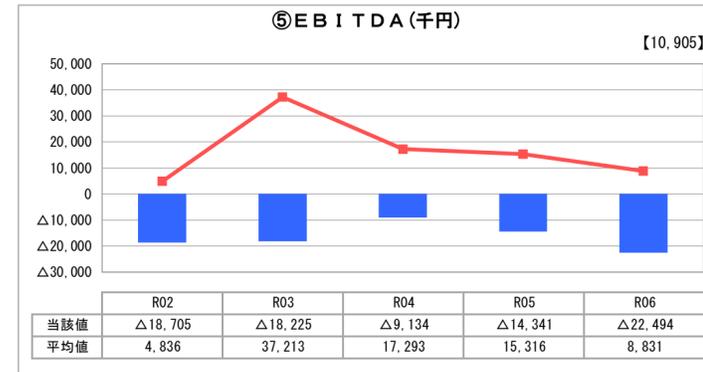
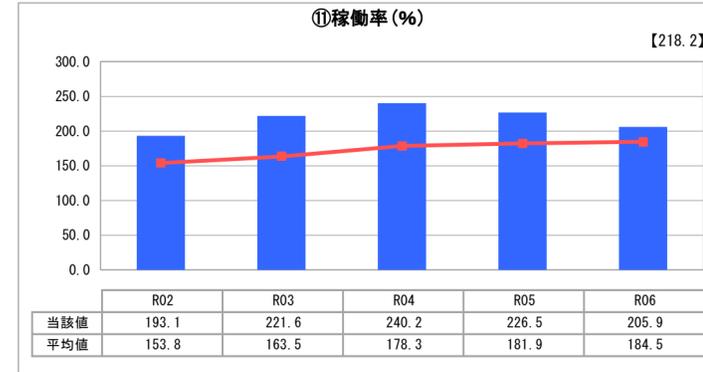
立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m <sup>2</sup> )
商業施設	無	4,685
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
102	300	利用料金制

<b>グラフ凡例</b>
■ 当該施設値(当該値)
— 類似施設平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

## 1. 収益等の状況



## 3. 利用の状況



## 2. 資産等の状況

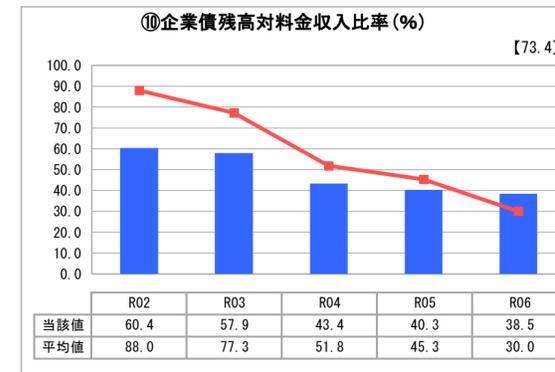
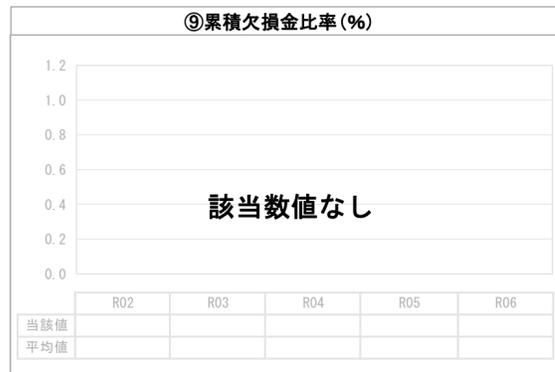


⑦敷地の地価(千円)

426,334

⑧設備投資見込額(千円)

91,954



## 分析欄

1. 収益等の状況について  
 ①収益的収支比率は、過去5年間に於いて常に100%を下回っており、赤字施設となっている。  
 ②他会計補助金比率について、R5年度は平均値を大きく超えていたが、R6年度は一般会計繰入金の額が低かったため、平均値を下回った。  
 ③駐車台数一台当たりの他会計補助金額については、R5及びR6年度ともに平均と大きな乖離はない。  
 ④売上高GOP比率及び⑤EBITDAはマイナスとなっている。駐車場の一部(地下2階部分)が機械式であるため、維持管理費が大きな負担となっている。また、当該駐車場は商業ビルの駐車場部分を区分所有しているため、商業ビルの維持管理に対する負担金や借地料がかかることも負担となっている。

2. 資産等の状況について  
 ⑦敷地の地価について、敷地の約85%が借地であるため将来的な財源として見込むことは難しい。  
 ⑧設備投資見込額は主に機械式駐車装置の修繕費用である。駐車装置の故障による休業を避けるためにも、計画的に修繕していく必要がある。  
 ⑩企業債残高対料金収入比率について、返済が進むにつれて遅減しており、順調に返済が進んでいる。

3. 利用の状況について  
 ⑩稼働率は、類似施設平均値を上回っている。稼働率が高水準である要因としては、当該駐車場が商業ビルの一部となっており、ビル利用者の利用が安定的に多いためといえる。また、固定の定期利用者が継続しており、収益の約3割を占めている。上記のとおり、商業ビルの駐車場としての利用が見込まれること、安定した定期利用者があること、都市計画駐車場であることから、当該施設は駐車場として維持していくことが適当であると考えられる。

全体総括  
 稼働率は高いものの、商業ビルへの負担金等の影響で売上高GOP比率やEBITDAはマイナスで、収益性は低い赤字施設である。施設マネジメントアクションプランに基づき、今後の経営改善に向けた取組を検討・実施していく。

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

福井県福井市 福井市本町通り地下駐車場

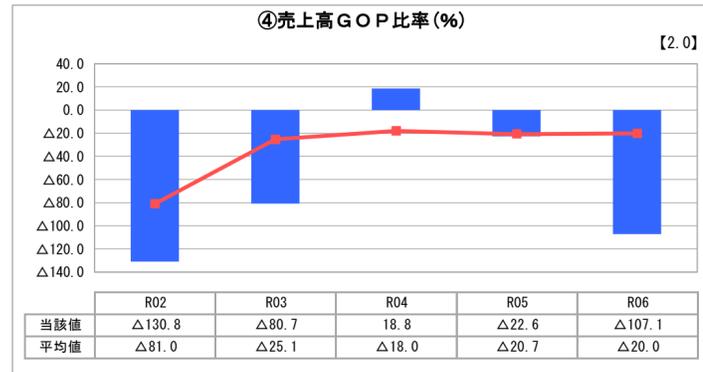
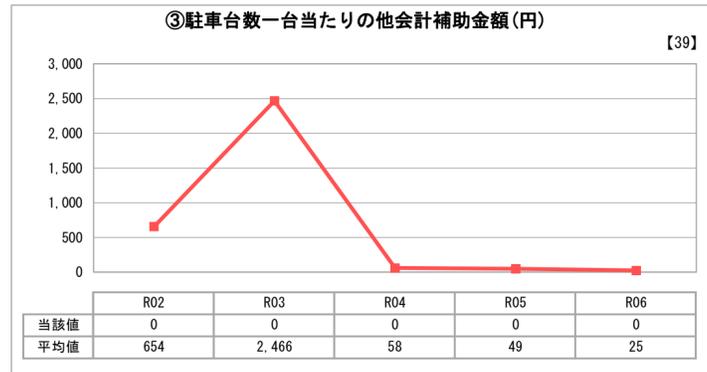
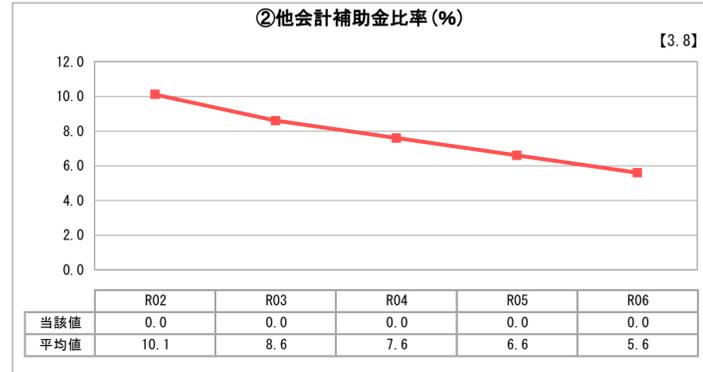
業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A 2 B 1	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	都市計画駐車場	地下式	28	

立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m <sup>2</sup> )
商業施設	有	10,045
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
316	300	利用料金制

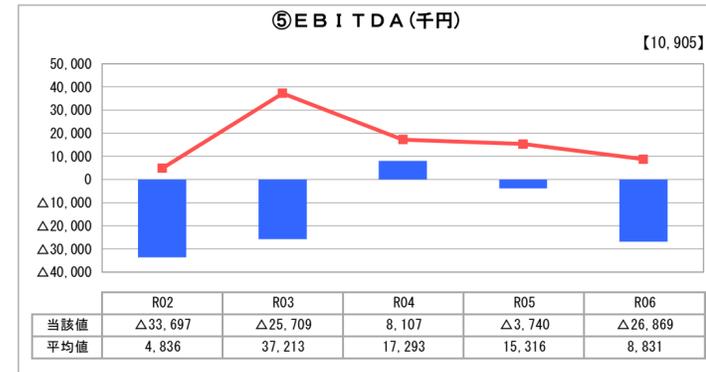
**グラフ凡例**

- 当該施設値(当該値)
- 類似施設平均値(平均値)
- 【】 令和6年度全国平均

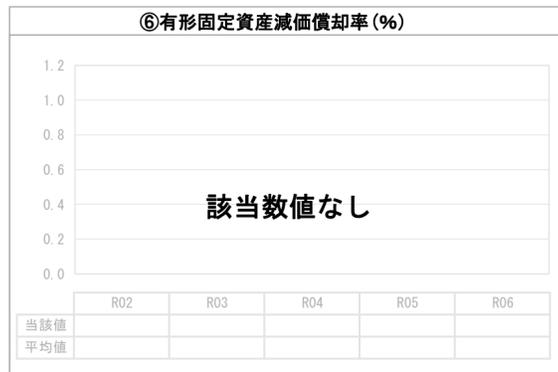
## 1. 収益等の状況



## 3. 利用の状況



## 2. 資産等の状況

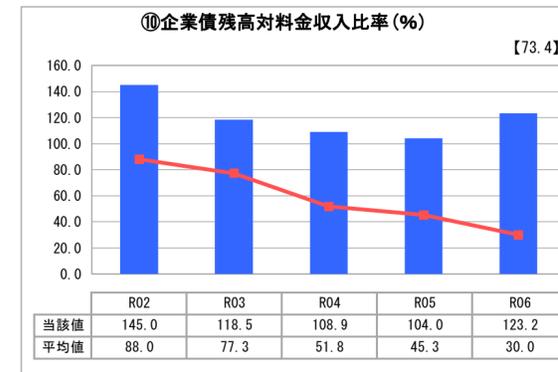
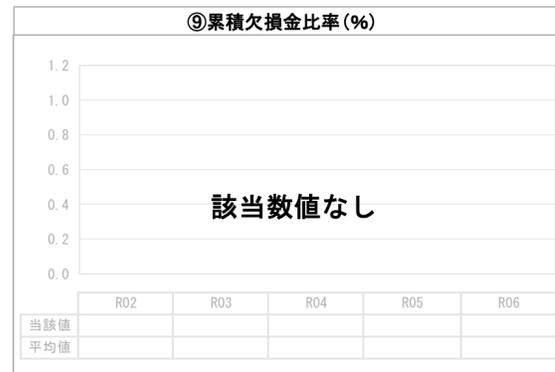


⑭敷地の地価(千円)

0

⑮設備投資見込額(千円)

328,870



## 分析欄

**1. 収益等の状況について**  
 ①収益的収支比率は、類似施設平均値より低い水準で推移しており、かつ100%を下回っている赤字施設である。当該駐車場は機械式駐車場であるため、修繕、保守点検費及び機械操作の人員費といった維持管理費が負担となっているが、安全性確保の面で費用の抑制は困難であり、経営改善のためには、収益の増加を図る必要がある。  
 ②他会計補助金比率及び③駐車台数一台当たりの他会計補助金額は、一般会計からの繰入金が多かったためいずれも0である。  
 ④売上高GOP比率及び⑤EBITDAは令和4年度にプラスに転じるも、令和5年度は再びマイナスに転じ、令和6年度はさらに低くなっている。R6年度は、8月と12月に機械が故障し、営業に大きな影響を及ぼすこととなり、結果的にR7年度から営業休止することとなった。

## 2. 資産等の状況について

⑦敷地の地価については県道下にあるため算出不可可能である。  
 ⑧設備投資見込額は主に機械式駐車装置の修繕費用見込であるが、令和7年度より営業休止となることから、今後検討する施設の方向性によっては追加投資が必要となる場合も想定される。  
 ⑩企業債残高対料金収入比率は建設時の起債償還が終了しているため下降傾向にあるものの、令和6年度は借換により償還費が増加したことで上昇した。

## 3. 利用の状況について

⑪稼働率について、類似施設平均値を大きく下回っており、厳しい経営状況である。利用状況としては、定期利用者が全体の約8割を占めており、傾向としては特定の利用者による利用となっており、公共の駐車場としては、その意義は薄くなっていると言える。

## 全体総括

施設全体として、類似施設平均値を下回る部分が多く見られる。収益的収支比率が100%に満たず赤字を示していることや、設備投資見込額が高額なこと、今後も経営は非常に厳しい。R6年度に頻発した機械設備の故障により、R7年度から営業を休止することとなるため、施設マネジメントアクションプランに基づき、施設の方向性を検討していく必要がある。